



JFAこころのプロジェクト 夢の教室

子どもたちに夢を!

公益財団法人日本サッカー協会（JFA）が行う「夢の教室」を、11月28・29・30日の3日間、小学校5年生と中学校2年生を対象に長洲中学校、長洲小学校、清里小学校で実施しました。3人の夢先生（ユメセソ）を迎え、それぞれ夢をテーマに子どもたちに向けて話をさせていただきました。



PROFILE

アビスパ福岡→サンフレッチェ広島→名古屋グランパスエイト→ヴィッセル神戸→大宮アルディージャ→ロアッソ熊本。2001年日本代表選出。2014年引退。現在はロアッソ熊本ジュニアユース監督を務める。



辛いことも糧にして

元プロサッカー選手MF

藤本 主税さん（山口県出身）

迷った時に決断する、そうした経験が自分の糧になる。困難・苦難のない無難な人生か、辛いことを『有難い』とポジティブにとらえる人生か。すべては自分次第で決めることができる。

父親の死、借金苦…と苦難の多かった少年時代に、サッカーだけは嫌なことを忘れさせてくれた。Jリーグが創設され、プロのサッカー選手になって親を助けたと、人より練習し、サッカーに励んだ。努力の結果、U-15日本代表になり、サッカー強豪校に進学。だが、プロまでの道は平たんではなく、周囲に支えられながら、念願のプロ契約を結んで数年後に借金を全額返済し、最初の夢は叶った。その後日本代表という夢も叶えることができた。

今も夢に向かって努力中

車いすアスリート

廣道 純さん（大阪府出身）



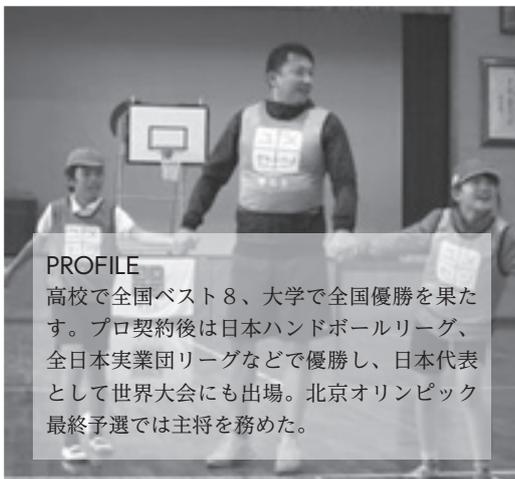
生きていくうえで、夢には必ず出会う。夢を叶えるためのチャンスを見逃さず、真剣に努力できるかどうか。やってみて失敗してもいい。ただ、いつ死ぬか分からないから、後でやればよかった後悔するのはもったいない。

高校1年生の時に、事故で脊髄損傷し下半身に麻痺が残った。しかし生きていたことへの感謝が大きかった。車いすレースを知って多くの先輩と出会い、目の前の目標をクリアするためにコツコツと努力を続けた。さまざまな葛藤や転機があったが、周囲に支えてもらいながら乗り越え、夢を叶えることができた。叶えた夢は通過点となる。今は東京パラリンピック出場を目指し、最終的には60歳まで現役でいることを夢にしている。



PROFILE

バイク事故で車いす生活となり、17歳で車いす競技と出会う。1996年大分国際車いすマラソンで日本人初の総合2位、800mでシドニーパラリンピック銀メダル、アテネパラリンピック銅メダル獲得。北京、ロンドンにも出場し4大会連続入賞を果たす。



PROFILE

高校で全国ベスト8、大学で全国優勝を果たす。プロ契約後は日本ハンドボールリーグ、全日本実業団リーグなどで優勝し、日本代表として世界大会にも出場。北京オリンピック最終予選では主将を務めた。



夢をもっと語ろう

元ハンドボール選手

永島 英明さん（大阪府出身）

から楽しいことが見えてくるし、その先をもっと見たいくなるから辛いことでもがんばれる。夢は語ることで、聞いた人が力を貸してくれることもあるから、皆さんももっと夢を語ってほしい。

中学までは野球が好きで、「努力する才能がある」と言われ練習に励んだが、望んだ結果が出ず挫折しそうになった。しかし、高校でハンドボールに出会い、なんて楽しいんだ！とワクワクした。鍛えた肩を活かされたから、野球でした努力も無駄ではなかった。練習を重ねて目の前の目標をクリアしていくことで、新しい世界に出会い、大きな夢を達成できた。

県発明工夫展で県知事賞を受賞

11月10日、熊本県発明工夫展(県、県発明協会、県教育委員会、熊本日日新聞社主催)の表彰式が熊本県環境総合センターで行われ、六栄小学校6年の中島熙之くんが発明した水槽内のごみだけを吸い取る「水中そうじ機」が熊本県知事賞を受賞しました。

これは、県の科学技術の振興や発展をはかるため、小中学生を対象に毎年行われているもので、中島くんは、「楽しくやった自由研究でこのような賞を受賞できてうれしい」と笑顔で話しました。



熊本県知事賞を獲得した中島くん(中央)

区民で楽しくお出かけ

新山区(島永邦生区長)は、11月30日、外出支援活動として福岡県柳川市で川下りなどを楽しみました。

この日は、区民29人が参加。島永区長は、「天候にも恵まれ、会話も弾みとても良い支援活動ができたと思います。これからも、区民で助け合い、区を盛り上げていきたいですね」と笑顔で話しました。



川下りをして楽しむ区民の皆さん



マスクのつけた方を練習する参加者

公民館・介護予防拠点事業

高田区老人会(宮田福市会長)は、11月9日に高田区公民館で公民館・介護予防拠点事業の健康講座を開催しました。同日は有明成仁病院の看護師を講師に招いての「インフルエンザと感染症予防」と食生活改善推進員協議会による「野菜摂取と減塩」についての講話を行いました。

参加者からは「マスクの使い方を初めて習った」「ラーメンのスープを残すだけで減塩の効果があるんですね」などの声があがり、健康の大切さを学ぶ一日となりました。



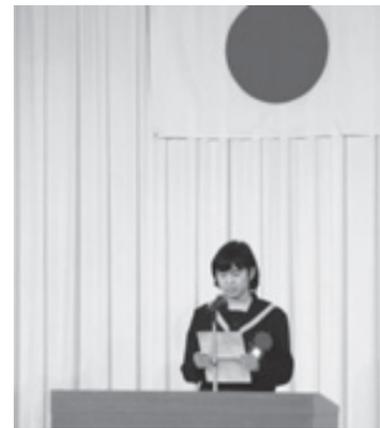
優勝した永方永寿会の皆さん

長洲町老人クラブ連合会50周年記念親睦グラウンドゴルフ大会開催

11月10日、町総合グラウンドで長洲町老人クラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会が行われました。

これは、長洲町老人クラブ連合会が老連50年を迎えるのを記念して、会員の親睦を深めることを目的に行ったものです。

当日は、参加者が熱戦を繰り広げ、参加チーム24チームの中から永方永寿会が優勝しました。



松山実音さん



松山実音(玉名高校付属中2年)

税を考える週間実行委員会による、平成28年度中学生の「税についての作文」の表彰式が11月12日に開催されました。荒尾・玉名郡市内の中学校から1,981名の応募があり、松山実音さん(駒通区)が公益財団法人全国法人会総連合会長賞を受賞しました。この賞は、全国で12人、熊本国税局管内での受賞は、1人というとても素晴らしい賞です。

受賞者(敬称略)
公益財団法人全国法人会
総連合会長賞
松山実音(玉名高校付属中2年)

税の作文表彰式

公益財団法人全国法人会総連合会長賞 税金で笑顔を取り戻す

玉名高等学校付属中学校二年
松山実音



四月十四日。夕食後、ゆっくり過ごしていたときだった。突然大きな揺れが襲ってきて、私はとっさに机につかまった。携帯が地震を知らせるアラームを発している。母が急いでテレビをつける。その画面には目を疑うような文字が映し出されていた。

「熊本県熊本地方を震源とする震度7の地震発生」

四月十六日未明にも震度7の地震が起きた。連日のニュースで目にする、倒壊した家々や道路、家から避難所に逃げてきた人々。それらは私の心を痛ませた。そんなときに、がれきを撤去したり、被災者のために風呂を設営している自衛隊の方たちの姿があった。久方の入浴に頬をゆるませて話す被災者の笑顔が印象的だった。

地震などの自然災害が起きたとき、人命救助やがれきの撤去、被災者の生活支援のため自衛隊や消防の方々が迅速に活動されている。この活動も税金によって支えられているのだ。税金は公共設備だけでなく、人的活動にも使われていて、そのことで救われる人命があるということ。私達は忘れてはならない。

熊本市近くに暮らすおじが話してくれた。「断水、停電、家の壁にはひびが入った。正直、これからどうなるやろて思ったよ。給水車まで水をもらいにいった時、自衛隊の人があたたかく声をかけてくれたのが嬉しかった。復興はそれほど簡単なことじゃなからうけど、支えてくれる人たちがいることがどんなにありがたくて力になるか、今回身にしてみた。」

税金の使われ方について、改めて考える。日常生活をより快適で安心、安全なものにするために使われることは広く知られていると思う。しかし、税金はそれだけでなく、今回の地震のように災害が起きたときも私たちがしっかりと支えてくれている。

被災地の復興のための、水道、電気、ガスなどライフラインの整備、そして被災者の生活を支援する様々な制度。いざというとき私たちの不安を和らげ、また新たな一歩を踏み出そうとする手助けをするためにも税金は使われているのだ。

「別に税金なんて必要ないのではないかな?」「面倒だし税金を納めなくても大丈夫だろう。」

そう考える人も世の中にはいるだろう。しかし、税について学び、税について知れば知るほど、私たちのくらしがどんなに税の恩恵を受けているかに気付くだろう。

私たち一人ひとりの税によって、世の中が安心して生活できるものになり、災害時も復興に役立てられる。決して不要ではないのだ。

我が家が納めている税金が今回の震災にお役に立てたのなら、とても誇らしい。おじが話してくれたように、熊本の復興は簡単なものではないかもしれない。だからこそ私たちの気持ちよめた税金を熊本の自然や町並み、人々のあの笑顔を取り戻すために有効に使ってほしいと強く思う。

長洲産ミニトマトで「お・も・て・な・し」

1月9日に開催された「長洲マラソン大会」と15日に開催された「的ばかい」で、来場者へのおもてなしと町のPRを目的に、長洲産ミニトマトとふれきんちゃんのしおりの無料配布を行いました。

両日とも多くの来場者でにぎわい、ミニトマトを受け取った人は、「長洲のミニトマトは甘くておいしい」、「お店で見つけたら買いますね」と笑顔で話し、大好評でした。



長洲産ミニトマトをPR



ものづくりを楽しむ区民の皆さん

区民が「酉」のものづくりに挑戦！

12月12日、下東区(中逸博区長)は、介護予防拠点施設「はっとり荘」でものづくり教室を行いました。

当日は、区民27人が参加し、2017年の干支である「酉」を作って楽しみました。

中逸区長は「今後も区民で力を合わせて色々なことに積極的に取り組んでいき、区を盛りあげていきたい」と話しました。

無病息災、五穀豊穡を願って



「どんどこや」とは、正月飾りなどを各家庭から持ち寄り、一カ所に積み上げて燃やす日本全国に伝わる火祭りです。無病息災・五穀豊穡を祈る伝統的な行事です。

町でも、1月上旬から中旬にかけて、各行政区でどんどこやが行われました。

どんどこやには、子ども会や老人会、消防団など多くの区民が参加し、竹やわら、正月飾りなどが積み上げられた大きなやぐらに火をつけられ、大きな炎があがり、竹のはじける音が響き渡ると、参加した区民から大きな歓声があがりました。

どんどこやが開催された行政区は次のとおりです。

赤崎 鷺巣 向野
宮崎 建浜 新町
松原 新山 宝町
中町 今町 下東
西荒神 東荒神
大明神